

《アンケート結果》中学校社会科授業での「丸亀市自治基本条例」の活用について

実施期間：令和5年11月28日～令和6年1月12日

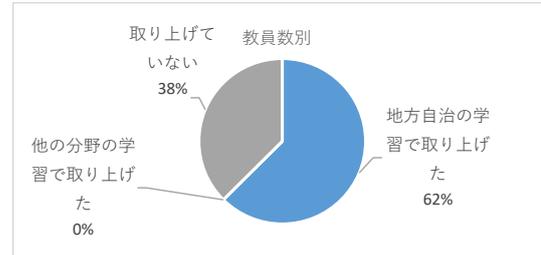
対象：丸亀市公立中学校で3年生を担当する社会科教員

回答者数：8名（担当するクラス数：6校23クラス）

質問1 授業で「丸亀市自治基本条例」を取り上げていただけましたか？

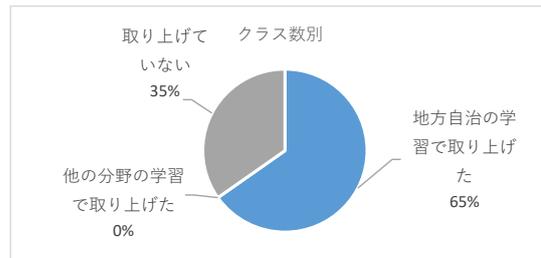
【教員数別】

回答	教員数	割合(%)
地方自治の学習で取り上げた	5	62.5
他の分野の学習で取り上げた	0	0.0
取り上げていない	3	37.5



【クラス数別】

回答	クラス数	割合(%)
地方自治の学習で取り上げた	15	65.2
他の分野の学習で取り上げた	0	0.0
取り上げていない	8	34.8



質問1で「取り上げていない」と回答された方は、その理由を教えてください。（→質問6へ）

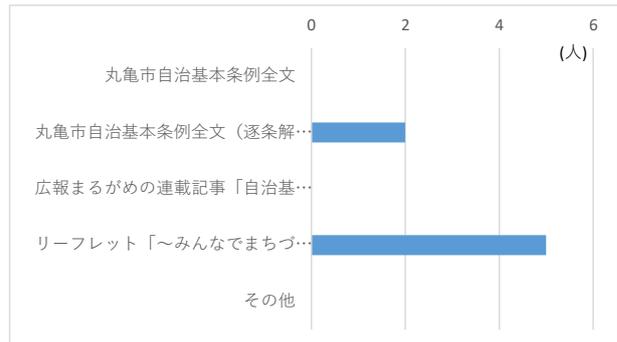
自治基本条例は取り上げていませんが、「多様化条例」「子ども条例」を取り上げて、紹介しました。

カリキュラム上、時間がない。

学習の進捗の関係で時間がとれなかった

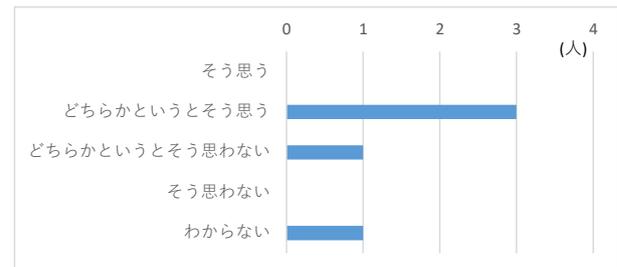
質問2 授業で「丸亀市自治基本条例」を取り上げた方は、どの資料を使用しましたか？（複数回答可）

回答	教員数	割合(%)
丸亀市自治基本条例全文	0	0.0
丸亀市自治基本条例全文（逐条解説付）	2	28.6
広報まるがめの連載記事「自治基本条例講座」	0	0.0
リーフレット「～みんなでまちづくり～丸亀市自治基本条例」	5	71.4
その他	0	0.0



質問3 資料は「丸亀市自治基本条例」の理解に役立ったと思いますか？

回答	教員数	割合(%)
そう思う	0	0.0
どちらかというと思う	3	60.0
どちらかというと思わない	1	20.0
そう思わない	0	0.0
わからない	1	20.0



その理由を教えてください。【「どちらかというと思う」を選択した方】

条例に加え運動公園に関するパブリックコメントを紹介することで、“自治”への理解が深まったと思われる。

自分たちが住む丸亀市が何をしているか、知るきっかけになったと思う。

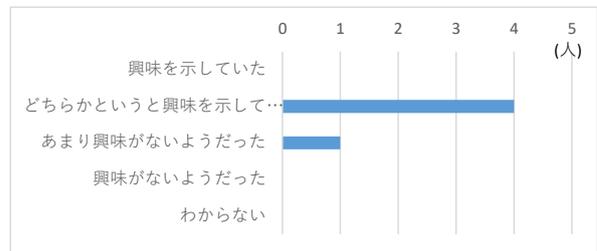
丸亀市にも住民自治についての制度があることを周知できた。

その理由を教えてください。【「どちらかというと思わない」を選択した方】

法令学習をはじめとした、社会科学の学習はケーススタディが有効である。具体的な（架空の設定で可）事象を設定し、その事象に付随する問題や課題を解決する手立てとして、条例が引用されるようなストーリーのほうが理解が深まる。条例だけではもちろん子どもは理解できない。また、抽象的で具体性のない文言ではイメージがわからない。「身近なまちづくり」といっても「まちをつくる」ということや、「身近」ということについても具体性が子供には必要であるし、身体性を失った昨今のデジタル世代の、生物としての学力（生きる力）は著しく低下しているの、うまくいかない。

質問4 「丸亀市自治基本条例」を授業で取り上げた際の生徒の反応はどうでしたか？

回答	教員数	割合(%)
興味を示していた	0	0.0
どちらかという興味を示していた	4	80.0
あまり興味がないようだった	1	20.0
興味がないようだった	0	0.0
わからない	0	0.0



質問5 「丸亀市自治基本条例」を授業で取り上げた際に、生徒たちから出た質問等があればご記入ください。

市民サービスについての疑問や、まちづくりについての疑問が出てきた。例えば、小学校は比較的きれいなのに、中学校はなぜ老朽化のまま修理されないのか？など。

質問6 「丸亀市自治基本条例」を授業で取り上げることにに対する率直な意見をお聞かせください。

回答	教員数	割合(%)
有効である	0	0.0
どちらかという有効である	7	87.5
あまり有効でない	1	12.5
有効でない	0	0.0



質問7 その他に、「丸亀市自治基本条例」を授業で取り上げること、また中学生の理解促進について、ご意見やご要望等がありましたら、ご自由にご記入ください。

この条例を施行するにあたり、活動の一端に税金がどのように使われているのか、わかるような資料があれば、納税者としての意識高揚にもつながると思いました。

丸亀市自治基本条例（リーフレットを含む）について、児童・生徒用に説明を加えたものがあれば、個人に配布することができた。生徒にとって、より具体的（身近）な市政参加や市民生活に関する事例を授業で取り扱った。

（協力できず）申し訳ありません。

「丸亀市自治基本条例」のリーフレットを少し取り上げた。「広報まるがめ」11月号に丸亀市の昨年度の収入と支出の内訳が掲載されているのを偶然見つけて、話題にして授業中に広報を回覧した。可能であれば丸亀市の財政の資料も作っていただけたら、条例とあわせてもっと理解が深まると思った。

どのように運用されているのかなどについての具体的な例があれば、伝えやすいと思う。

国政や地方自治を取り上げる場合は、具体的な政策を調べさせることが重要である。ただし、政治的なこともあり生々しい部分があるので、「歴史的」「地理的」なフィルターをかけることが重要。歴史的な観点では、昭和や平成期の丸亀市の政策などを取り上げる。そのうえで、現在の丸亀市の施策や町の現状を比較すると、「必要なこと。必要であってもできないこと」ということが浮かび上がってくる。トレードオフの概念を導入して、客観的に丸亀市の現状と展望を理解させることができるだろう。社会科学の理解については、ケーススタディが適切である。抽象化をしすぎたところで子どもも学生も理解できない。米国のMBAプログラムにしても基本はケーススタディである。具体的な物語をいくつか作っておいて、その物語のプロットにたくさんの伏線をはっておけば、条例の様々な部分を教師がとりあげることが可能だろう。しかし、それは教師側の力量も問われている。丸亀市の社会科教員に活用させたいのであれば、夏の研究その他において、モデル授業の研修も必要だろう。研究を委嘱して授業活用例を作ってもらうなどが必要である。ただ、研究員となった教師に負担がかかるので、必要なフォローと、委嘱に見合う成果発表とペイなどが必要である。